

◎一切の問題をインペイした改革案一開講による斗争圧殺策動粉砕!!
◎文学部教授会、地理教授陣はただちに団交に応じよ!!

全ての学友諸君、そして地理学科の学友諸君、
すでに学園は阿事もなかつたかのように、授業
が開始された。以前の矛盾だらけの無内容な立命
が復活しつつある。

すなわち、あの12月新聞社問題前の状態が、
古い秩序が再び復活しつつあるのだ。

一体、あの12月新聞社事件、一月寮斗争、
中川会館封鎖、当局、民青の斗争庄殺(封鎖突
力解除)、ロックアウト、三月期末テスト強行、
といふ一連の事態に対する責任はどうか
というのか。新聞社事件で暴力反対を叫び民青の
新聞社介入を正当化し、問題のインペイにつ
めた当局、教授会、教組の責任、さらに一月
寮斗争中川会館封鎖に対する理事会、教授会の
責任、民青の暴力封鎖解除に対する当局の協力
資料提供の責任はどうか。それ
て二月の全学理事会団交による確認はどうか
たのか。行動隊の導入、封鎖解除、その後の当
局「民青一体となつた」ロックアウト等々の一連
の事態に対する責任、問題の追求は一切なされ
ていないばかりか、我々に対し終始敵対して
いた武蔵が何らの責任もと与えないまま平然と総長
事務取扱いとして大学の最高責任者に居坐り続
けているのだ!!

このような状況の中での開講、改革案とい
うものは、旧秩序に学園をひきよせ、そのワケ
内で、大学側の都合のよい若干の変更であり、
学生の支配管理体制という基本パターンは何ら
変えていないのである。

改革案とは本巣大学に矛盾があるが故に出さ
れるものであるけれども、現在の改革案なるもの
は、矛盾を告発し、大学の枠構、体制に問題
があることをバク口してきた覺連合、全共斗と
の団交を試験行い一切拒否し、さらに全学
理事会団交での確認すらホゴにできた大学当
局、教授会が一方的に提出してきたものであり
当然それは問題の本質をとらえていないもので
ある。従つて、この一連の改革案なるものを、我
々同様にして認めることはできないし、それを
討議すること自体認めることはできない。

我々は、まず何よりも基本的な問題の共通点と
確立すべく、ただちに教授会、理事会は大家団交
を再開することを要求する。

そして地理学科の教授陣に、一月段階での発言
をもう一度思い出し、今の改革案一開講がいかに
るものであるかを考え直し、問題とさらに追末す
べく専攻集会を早くことを提示する。そしてその
場で、復学した佐々木先生に、辞表を提出した理
由と再度明確にすること、立命の問題史について
の基本的見解、復学した理由等々と全面生に述べ
ることを要求する。

我々は一月において文学部教授会が何を言
えましてどのような行動をしてきたのかを知って
いる。すなわち話し合いで問題解決をといっているが
それ以後の大学当局の斗争庄殺、行動隊導入、取
捨採動に対して黙認し、協力し、加担してきた
のである。しかもでもなく地理学科の教授陣も同様
である。我々はそのような教授陣がこれからの授業
をやりながら改革を進めていくと云つても決して
信用できないし、また我々を理解してきているとい
ふポーズをとろうとも信用できない。

今、問題を解決する唯一の方法は団交再開であ
り、むしろ開講中止以外にあり得ない。我々
はただちにクラス、専攻を現在までの事態、そし
て問題史は何であるのかを追求する討議を開始し
一切の授業を拒否することを呼びかける。そして
専攻ストライキで開講を阻止し、学部、全学団交
再開を要求しよう。

全々の学友諸君、今將に君の主休性が問われ
ているのだ。地理専攻の学友諸君、地理斗に結集し
よう。文学部に結集しよう。立命大斗争を全国学
闘斗争と連帯して斗おう。

五月十日 地理専攻集会
時間場所等は必ず報告します。
P110 存43